

名実ともに”みちのくの雄たち”が見せた熱闘のあと

秋田高球児たちよ

あの夏を越えよ

いま振り返る 悲願の全国制覇にかけたあの夏

栄冠目指したつわものの面々

【昭和40年(1965年)夏のオーダー】

一番 右翼手 成田 憲明
二番 遊撃手 佐藤 茂範
三番 二塁手 飯塚 明
四番 捕手 藤原 稔
五番 一塁手 岡本 隆
六番 投手 笠文行
 " 大久保正樹
七番 中堅手 藤原 清己
八番 左翼手 斎藤 正人
九番 三塁手 渡辺 和美
 控 え 今井 敦雄
 " 堀内 一志
 " 高橋 修平
 " 広瀬 光

秋田高校 校歌

天上はるかに 太平山の
姿は けだかし 三千余尺
長江流れて 六十幾里
海にと馳せ行く 雄物川波

高きと長きと 無言の教
紅顔 日に日に顧み思ふ
わが生 わが世の 天職いかに
秋田の高校 一千健児

白球飛び交うところに平和あり

CONTENTS

秋田高校 第四十七回全国高校野球選手権大会の記録

史上最強軍団の熱き熱球譜

《その昭和39年秋から昭和40年夏までを追う》

- ◇ I. 最強軍団への序章
(昭和39年秋の東北制覇～昭和40年のセンバツ～
そして春ふたたびの東北制覇)

- ◇ II. 西奥羽の覇者
(春に続いて昭和40年夏の甲子園大会へ～
夢の実現へ)

- ◇ III. 大旗に向かって突き進め
(いまふり返るあの夏の日々)

<参考資料>

- ・ 秋田県立秋田高等学校野球史
- ・ 翔球
- ・ 週刊朝日臨時増刊 第47回高校野球甲子園大会
- ・ 甲子園全試合スコアデータブック 熱球譜
- ・ ベースボールマガジン昭和40年9月号
- ・ 炭鉱町に咲いた原貢野球
- ・ 朝日新聞
- ・ 秋田魁新報
- 秋田高校野球部OB会 矢留倶楽部
- 秋田県高等学校野球連盟
- 朝日新聞社
- 恒川 直俊 東京堂出版
- ベースボールマガジン社
- 澤宮 優 現代書館

また夏がやってきた
うだるような暑さのもと 高校野球はいまや欠くことができない日本の大イベント、風物詩になった

秋田高校はその第一回大会に全国準優勝 以後、奥羽の雄として名門の名をほしいままにしてきた
だが残念ながらこのところ甲子園への道のりは遠く険しい

来年の平成25年は学校創立から数えて140年と開く
この節目を迎え 名門秋田高校野球部の復活を望まぬものはいまい

記憶にある実績を思い返すと、ひとむかし前くらいのことと思っていたあのベスト4の活躍から既に47年経つ
この機会にあのときの戦いぶりをふり返り、懐かしさの余韻に浸ることも高校野球の老ファンにとっては楽しみのひとつである

そしてこの記録が甲子園をめざす秋田球児たちへのメッセージとして些かでもお役に立てれば望外の喜びである

史上最強軍団の熱き球譜 《その昭和39年秋から昭和40年夏までを追う》

I. 最強軍団への序章（昭和39年秋の東北制覇～昭和40年のセンバツ～そして春ふたたびの東北制覇）

年	季	大会	月	日	球場	勝敗	校名	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計	バッテリー・長打			
三十九年 (一九六四年)	秋	第十一回秋田市市内高校野球リーグ戦	8	20	八橋	○	秋田	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	4	○鑑一藤原稔		
						金足農	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2				
			8	21	八橋	○	秋田	1	0	2	0	0	5	0	0	2	10	○岡本一藤原稔	▽三塁打=成田2、藤原清		
						秋田南	2	0	0	0	0	2	0	0	0	4					
			8	22	八橋	○	秋田	0	1	0	2	4	0	4	0	×	11	20	岡本、大久保一藤原稔	▽本塁打=佐藤、▽三塁打=成田2、岡本	
						経大付	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2				
		8	23	八橋	○	秋田	8	2	5	5	0	(五回コールド)							20	鑑、大久保一藤原稔	▽本塁打=藤原稔、
					市立	0	0	0	0	0						0					
		8	24	八橋	○	秋田	0	0	0	0	1	1	3	(七回日没コールド)					5	○鑑一藤原稔	▽三塁打=成田、藤原清
					秋田工	2	0	0	0	3	4	×				9					
		8	29	八橋	○	秋田	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	○岡本一藤原稔	▽二塁打=岡本2、斎藤2		
	秋田商				0	1	0	1	0	0	0	4	×	6							
	中央地区大会	9	4	○	秋田	0	1	0	2	1	0	2	0	×	6	○鑑一藤原稔	▽三塁打=成田、飯塚	▽二塁打=鑑、藤原清	鑑、無安打完封		
				矢島	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
		9	6	八橋	○	秋田	0	3	0	2	1	0	1	×	8	○大久保一藤原稔	▽二塁打=渡辺	(八回コールド)			
					市立	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1						
		9	7	準決勝	○	秋田	0	2	0	0	2	0	0	3	×	7	○鑑一藤原稔	▽二塁打=飯塚、斎藤、佐藤	★秋田高、県大会へ出場		
	金足農				0	0	1	0	0	0	0	0	0	1							
	全県高校野球大会	9	18	一回戦	○	秋田	0	1	0	1	0	0	3	0	×	5	○鑑一藤原稔	▽三塁打=飯塚、斎藤			
					大曲東	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1						
9		21	準決勝	○	秋田	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	○鑑一藤原稔	▽二塁打=藤原稔2				
				大曲市営	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
9	23	決勝	○	秋田	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	×	3	★秋田高三年ぶり四回目の優勝	
			秋田商	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	岡本、○鑑一藤原稔
第十七回秋季東北六県	10	3	一回戦	○	秋田	3	0	1	2	0	2	0	0	0	8	○鑑一藤原稔	▽三塁打=鑑、佐藤、飯塚				
				信夫ヶ丘(福島)	3	0	0	2	0	0	0	0	0	5							
	10	4	準決勝	○	秋田	0	0	0	0	3	0	1	1	0	5	大久保、鑑一藤原稔	▽三塁打=飯塚				
				信夫ヶ丘(福島)	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2							
10	5	決勝	○	秋田	0	0	6	0	0	0	0	0	0	6	○鑑一藤原稔	▽二塁打=渡辺、藤原稔、成田					
			信夫ヶ丘(福島)	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2								

(注:①球場名不詳あり②勝利投手不詳あり)

新チーム結成から、公式戦15戦全勝。秋の東北を制し、文句無く翌春のセンバツ出場権を勝ち得た若者たちは、部史上最強のチームへと歩み始めた、

昭和	時期	大会	月	日	球場	勝敗	校名	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計	バッテリー・長打				
四十年 (一九六五年)	春	選抜	3	28	甲子園	●	秋田	2	0	0	0	0	1	3	0	0	0	6	●鑑一藤原稔	▽三塁打=鑑、		
						静岡	4	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	7	▽二塁打=岡本2		
		第十二回秋田市市内高校野球リーグ戦	5	1	八橋	○	秋田	1	1	4	3	0	9	(六回コールド)					18	○大久保一藤原稔	▽三塁打=渡辺	
						秋田南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
			5	2	八橋	●	秋田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	大久保、鑑一藤原稔	▽二塁打=成田
						金足農	0	0	0	1	0	0	0	0	×	1						
			5	3	八橋	○	秋田	0	0	0	1	0	3	4	0	×	8	▽三塁打=岡本、▽二塁打=藤原稔	◆三浦投手に散発3安打で完封さる			
						秋田工	0	0	0	4	0	0	1	0	1	6						
			5	5	八橋	○	秋田	1	0	0	0	0	3	0	0	1	5	○大久保一藤原稔	▽二塁打=岡本			
						経大付	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
			5	8	八橋	○	秋田	1	0	2	0	5	0	×			8	○大久保一藤原稔	▽二塁打=藤原稔			
市立	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0									
5	12	八橋	○	秋田	1	0	0	0	0	0	0	0	2	×	3	○大久保一藤原稔	▽二塁打=成田、藤原稔					
			秋田商	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	×							
5	21	八橋	○	秋田	0	0	6	4	×	(五回コールド)							10	○鑑一藤原稔	▽三塁打=飯塚、			
			秋田南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	×						

★秋田高、県大会へ出場

昭和	時期	大会	月	日	球場	勝敗	校名	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計	バッテリー・長打	
四十年 (一九六五年)	春	全 国 高 校 選 抜 大 会	5	29	八橋	○	秋田	0	0	2	2	0	1	4	1	0	10	○鏡、大久保一藤原稔▽三塁打=成田2	
			一回戦					花岡工	0	1	0	2	1	0	1	2	0	7	▽二塁打=飯塚2、岡本、鏡
		準 決 勝	6	1	八橋			秋田商	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	○大久保一藤原稔▽三塁打=藤原稔
			決勝	○	秋田	0	2	1	2	0	0	0	0	0	0	×	5	▽二塁打=岡本2	
		第 十 二 回 春 季 東 北 六 県 全 県 高 校 選 抜 大 会	6	5	米沢市営 (山形)	○	秋田	1	0	4	1	3	0	0				9	○大久保一藤原稔
			一回戦					育英	0	0	0	1	0	0	0			1	▽二塁打=成田、藤原清、藤原稔
	準 決 勝	6	6	米沢市営 (山形)	○	秋田	1	0	0	2	0	0	0	1	0	4	3	鏡、○大久保一藤原稔	
		決勝					花巻商	1	0	0	0	0	2	0	0	0	3	▽三塁打=成田、飯塚、藤原稔	
	全 国 高 校 選 抜 大 会	6	7	米沢市営 (山形)	○	秋田	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	○大久保一藤原稔▽二塁打=成田	
		一回戦					磐城	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	★秋田高、秋に続いて東北六県で優勝
	第 十 二 回 春 季 東 北 六 県 全 県 高 校 選 抜 大 会	6	19	能代市営	○	秋田	1	0	1	1	2	0	0	0	0	0	5	○鏡一大門▽二塁打=佐藤、成田、斎藤	
		一回戦					能代商	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1		
準 決 勝	6	20	能代市営	●	秋田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	●大久保一大門、藤原稔	
	決勝					金足農	0	0	0	1	0	0	0	0	×	1	◆三浦投手に散発6安打でまたも完封さる		

春のセンバツでの打ち合いに自信を持ち、鏡、大久保の投手陣の整備により、全国制覇も夢ではないとの確信を得た。いまや東北には敵なしだ。

II. 西奥羽の覇者 (春に続いて昭和40年夏の甲子園大会へ～夢の実現へ)

四十年 (一九六五年)	夏	秋 田 大 会 二 回 戦	<p>前年秋から東北地区では破竹の快進撃を続けている秋田高校、その集大成が間じかに迫る。その為には、まずは昭和40年(1965年)夏の全国高校野球選手権大会への出場権の獲得。それには秋田県を制し、さらに西奥羽大会での山形県勢を倒さなければならない。大会前の展望を朝日新聞、秋田魁新報から拾うと次ぎのとおり。</p> <p>■[朝日新聞(抜粋)]◇秋田県 名門の貫禄見せる秋田 参加校は昨年より一校ふえて三十七校。……春の選抜で甲子園の土を踏んだ秋田は東北高校春季野球大会でも初優勝し、久しぶりに名門らしい貫禄を見せている。打線は春以来二割九分九厘と切れ目なく、投手陣も主戦鏡は不調だが救援の大久保がこのところ好調で、県代表最有力候補の呼声が高い。</p> <p>■[秋田さきがけ(抜粋)]◇秋田県予選の展望 Aゾーン 好調の波にのる秋高 ……今春の甲子園大会出場校の秋田高は全県選抜大会、東北大会の優勝をさらに好調そのもの。しかも春は投手陣が打力におんぶしての優勝だったが、最近ではエースの左腕鏡が完全に復調、二年生の大久保も完投能力が付き、左、右のタイプの異なった二人のエースができたので投手陣は鉄壁。打力もトップの成田、佐藤、飯塚、藤原稔、岡本の上位打者は春に引き続き好調。それに六番の斎藤が当たりをとりもどし、内外野どこでも使える今井が七番に定着できるようになったので下位も上位打者に劣らないほどスケールが大きくなった。</p> <p>両紙ともに秋田高校を一番手にあげている。いよいよ真夏の戦いは始まった。</p>																		
			7	20	秋大	湯	沢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○鏡一藤原稔▽三塁打=成田	
二	回	戦	○	秋田	0	2	0	0	0	0	0	1	3	×	6	6	▽二塁打=成田、飯塚、藤原稔				
湯沢の左腕小原のカーブに手こずったものの、秋高はあぶなげなく勝った。打線は初回の無死二、三塁こそ小原に巧みにかわされたが、二回成田の二塁打を中心に二つの敵失で二点を先行。一方、鏡の投球も速球が外角低目によくコントロールされ、無四球のピッチング。湯沢は散発3安打でつけているスキがなかった。それにしても秋田の打者はやはりカーブに弱かった。七、八回、飯塚、藤原、成田の長打でようやく四点を追加した。これは小原のタマのキレが落ちたため。変化球をいかにこなすかが今後の課題だ。[秋田さきがけ]			秋田高		打	安	点	失	湯沢高		打	安	点	失							
			(右)	成	田	4	3	2	0	(捕)	安	達	4	1	0	0					
・試合開始15時40分・試合時間2時間26分 【審判】(球)田中(塁)常世、佐藤、長谷川			(遊)		佐	藤	2	2	0	0	(投)		小	原	4	1	0	0			
			(二)	飯	塚	5	1	0	0	(中)	京	野	4	0	0	0					
計			(捕)		藤	原	稔	3	1	1	0	(一)		細	川	4	0	0	0		
			(一)	岡	本	3	1	0	0	(三)	佐	藤	健	3	1	0	0				
振			(左)		斎	藤	4	0	0	0	(遊)		藤	田	厚	3	0	0	3		
			(中)	今	井	2	0	0	0	(左)	高	橋	2	0	0	0					
球			打		中	藤	原	清	1	0	0	0	打		佐	藤	武	1	0	0	0
			(投)	鏡	3	1	1	0	左		佐	藤	儀	0	0	0	0				
儀			(三)		渡	辺	4	0	0	0	(二)		斎	藤	3	0	0	0			
			計	31	9	4	0	(右)		深	瀬	3	0	0	0						
盗			計		5	5	2	8	0	9	計		31	3	0	3					
			併		残	5	5	2	8	0	9	併		残	8	0	0	1	4		
残			併		残	5	5	2	8	0	併		残	8	0	0	1	4			
			盗		併	残	5	5	2	8	0	9	盗		併	残	8	0	0	1	4

昭和	時期	大会	月	日	球場	勝敗	校名	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計	バッテリー・長打																																																																																																																																																																																													
四十年 (一九六五年)	夏	秋田大会三回戦	7	22	秋大		西目農	0	0	0	2	0	0	0	(七回 コート)	2	大久保、○鏡一藤原稔																																																																																																																																																																																														
			三回戦	○	秋田	0	1	3	3	0	4	×	11	▽三塁打=斎藤、今井▽二塁打=成田																																																																																																																																																																																																	
<p>秋田高は西目農の意外な健闘に苦しんだが後半持ち前の猛打でコールド勝ちした。西目は強豪を意識しすぎてか対鷹巣農戦のような気迫にかけていた。それでも二回、先頭の竹坂が大久保の高めの好球をレフトフェンスにワンバウンドで当たる二塁打、島山も四球で無死一、二塁と絶好の先制機をを迎えた。しかしその後、送りバントに失敗、さらに栗田とのヒットエンドランも裏目に出て二塁走者の竹坂が三塁に刺されて一瞬にしてチャンスの芽をつんだ。秋田はその裏、無死四球の藤原を岡本が送り、今井の中前適時打で逆に一点を先取、三回には、渡辺が遊撃右に内野安打、成田の高くあがった飛球を中堅手hがグラブに当てはじくラッキーな当たりで一点、続く佐藤の右中間安打をまたも中堅手がはじいて労せずして二点目をあげ、この回三点と西目農には大きな負担となった。</p> <p>しかし立上がりコントロールに苦しむ大久保は、依然不安定なピッチングで西目農は四回にも四球で出た堀井が竹坂の右前安打でいきよ三塁をねらいタッチをさせた野手がボールをこぼす間に無死二、三塁の反撃機をつかんだ。つづく島山は2-2後、前進守備の中堅頭上を破る二塁打を放ち二点をかえし秋田高をおびやかした。しかもなお無死二、三塁と逆転機が続いたが、代わった鏡に三者三振に討ち取られ加点できなかった。</p> <p>このあと秋田高は四回、今井の三塁打にはじまり2四球と長短打で三点、六回にも四点とダメ押し大勝した。西目農の小助川は打たして取るピッチングで秋田高打線をかわそうとしたが、バックスの拙守が足を引っぱったかたち。西目農がこまかな試合運びを身につけていると秋田高はもっと苦しんだろう。[秋田さきがけ]</p>								<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">秋田高</th> <th>打</th> <th>安</th> <th>点</th> <th>失</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>(右)</td><td>成田</td><td>4</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td></tr> <tr><td>(遊)</td><td>佐藤</td><td>3</td><td>1</td><td>2</td><td>0</td></tr> <tr><td>(二)</td><td>飯塚</td><td>3</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td></tr> <tr><td>(捕)</td><td>藤原稔</td><td>3</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td></tr> <tr><td>(一)</td><td>岡本</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td></tr> <tr><td>(左)</td><td>斎藤</td><td>4</td><td>1</td><td>2</td><td>0</td></tr> <tr><td>左</td><td>堀内</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>(中)</td><td>今井</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td></tr> <tr><td>中</td><td>藤原清</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>(投)</td><td>大久保</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>投</td><td>鏡</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td></tr> <tr><td>(三)</td><td>渡辺</td><td>3</td><td>2</td><td>0</td><td>2</td></tr> <tr><td colspan="2">計</td><td>29</td><td>10</td><td>10</td><td>2</td></tr> <tr><td colspan="2">振球</td><td>2</td><td>4</td><td>2</td><td>4</td></tr> <tr><td colspan="2">犠盗併残</td><td>4</td><td>0</td><td>0</td><td>5</td></tr> </tbody> </table>				秋田高		打	安	点	失	(右)	成田	4	2	1	0	(遊)	佐藤	3	1	2	0	(二)	飯塚	3	0	1	0	(捕)	藤原稔	3	0	1	0	(一)	岡本	2	1	1	0	(左)	斎藤	4	1	2	0	左	堀内	0	0	0	0	(中)	今井	3	2	1	0	中	藤原清	1	0	0	0	(投)	大久保	1	0	0	0	投	鏡	2	1	1	0	(三)	渡辺	3	2	0	2	計		29	10	10	2	振球		2	4	2	4	犠盗併残		4	0	0	5	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">西目農</th> <th>打</th> <th>安</th> <th>点</th> <th>失</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>(三)</td><td>金子</td><td>4</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>(二)</td><td>佐藤</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>二</td><td>渡辺</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>打</td><td>吉岡</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>(中)</td><td>堀井</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td></tr> <tr><td>(捕)</td><td>竹坂</td><td>3</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>(遊)</td><td>島山</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>(投)</td><td>小助川</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>(一)</td><td>栗田</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>(右)</td><td>中村</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>打右</td><td>大友</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>(左)</td><td>佐々木</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td colspan="2">計</td><td>25</td><td>5</td><td>2</td><td>3</td></tr> <tr><td colspan="2">振球</td><td>13</td><td>4</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td colspan="2">犠盗併残</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>5</td></tr> </tbody> </table>				西目農		打	安	点	失	(三)	金子	4	0	0	0	(二)	佐藤	3	0	0	0	二	渡辺	0	0	0	0	打	吉岡	1	0	0	0	(中)	堀井	2	1	0	1	(捕)	竹坂	3	3	0	0	(遊)	島山	2	1	2	2	(投)	小助川	3	0	0	0	(一)	栗田	3	0	0	0	(右)	中村	1	0	0	0	打右	大友	1	0	0	0	(左)	佐々木	2	0	0	0	計		25	5	2	3	振球		13	4	0	0	犠盗併残		0	0	1	5
秋田高		打	安	点	失																																																																																																																																																																																																										
(右)	成田	4	2	1	0																																																																																																																																																																																																										
(遊)	佐藤	3	1	2	0																																																																																																																																																																																																										
(二)	飯塚	3	0	1	0																																																																																																																																																																																																										
(捕)	藤原稔	3	0	1	0																																																																																																																																																																																																										
(一)	岡本	2	1	1	0																																																																																																																																																																																																										
(左)	斎藤	4	1	2	0																																																																																																																																																																																																										
左	堀内	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																										
(中)	今井	3	2	1	0																																																																																																																																																																																																										
中	藤原清	1	0	0	0																																																																																																																																																																																																										
(投)	大久保	1	0	0	0																																																																																																																																																																																																										
投	鏡	2	1	1	0																																																																																																																																																																																																										
(三)	渡辺	3	2	0	2																																																																																																																																																																																																										
計		29	10	10	2																																																																																																																																																																																																										
振球		2	4	2	4																																																																																																																																																																																																										
犠盗併残		4	0	0	5																																																																																																																																																																																																										
西目農		打	安	点	失																																																																																																																																																																																																										
(三)	金子	4	0	0	0																																																																																																																																																																																																										
(二)	佐藤	3	0	0	0																																																																																																																																																																																																										
二	渡辺	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																										
打	吉岡	1	0	0	0																																																																																																																																																																																																										
(中)	堀井	2	1	0	1																																																																																																																																																																																																										
(捕)	竹坂	3	3	0	0																																																																																																																																																																																																										
(遊)	島山	2	1	2	2																																																																																																																																																																																																										
(投)	小助川	3	0	0	0																																																																																																																																																																																																										
(一)	栗田	3	0	0	0																																																																																																																																																																																																										
(右)	中村	1	0	0	0																																																																																																																																																																																																										
打右	大友	1	0	0	0																																																																																																																																																																																																										
(左)	佐々木	2	0	0	0																																																																																																																																																																																																										
計		25	5	2	3																																																																																																																																																																																																										
振球		13	4	0	0																																																																																																																																																																																																										
犠盗併残		0	0	1	5																																																																																																																																																																																																										
<p>・試合開始8時34分・試合時間2時間6分 【審判】(球)高橋(塁)古城、和田、大門</p>																																																																																																																																																																																																															
秋田大会準決勝	7	24	八橋	○	秋田	0	1	0	0	0	1	0	1	0	3	大久保、○鏡一藤原稔																																																																																																																																																																																															
	準決勝		大館商	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	▽三塁打=大久保▽二塁打=佐藤、今井																																																																																																																																																																																															
<p>秋田高の順当な勝利だった。しかし前半は大館商の捨て身の抵抗に合って苦しんだ。二回秋田高は大館商の先発上野から死球を得た斎藤が二盗に成功、二死後大久保の右翼線三塁打でかえって先行した。しかしこのあと代わった長岐に五回まで毎回安打の走者を得点圏に送りながら後続なくもたついた攻撃を繰り返した。これに対し大館商は新鋭チームらしくはつらつとした攻め。一点をリードされた二回裏、無死小林の四球と奈良の中前安打で一、二塁とし、重盗に成功、二死後三塁走者の小林が本盗を試みた。タイミングはわずかにおそく同点にはならなかったが、このあたりなんとしてでも得点を……という大館商の果敢な積極戦法のあらわれだった。しかし四回、無死で原田が四球を選んだところで代わった秋田高のエース鏡にその後は押えられ、最後まで得点できなかった。</p>								<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">秋田高</th> <th>打</th> <th>安</th> <th>点</th> <th>失</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>(右)</td><td>成田</td><td>5</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>(遊)</td><td>佐藤</td><td>5</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>(二)</td><td>飯塚</td><td>3</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>(捕)</td><td>藤原稔</td><td>4</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td></tr> <tr><td>(一)</td><td>岡本</td><td>4</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>(左)</td><td>斎藤</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>(中)</td><td>今井</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td></tr> <tr><td>中</td><td>藤原清</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>(投)</td><td>大久保</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td></tr> <tr><td>投</td><td>鏡</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>(三)</td><td>渡辺</td><td>4</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td colspan="2">計</td><td>36</td><td>10</td><td>3</td><td>0</td></tr> <tr><td colspan="2">振球</td><td>2</td><td>2</td><td>0</td><td>4</td></tr> <tr><td colspan="2">犠盗併残</td><td>4</td><td>0</td><td>0</td><td>8</td></tr> </tbody> </table>				秋田高		打	安	点	失	(右)	成田	5	0	0	0	(遊)	佐藤	5	1	0	0	(二)	飯塚	3	1	0	0	(捕)	藤原稔	4	2	1	0	(一)	岡本	4	1	0	0	(左)	斎藤	3	0	0	0	(中)	今井	3	2	1	0	中	藤原清	1	1	0	0	(投)	大久保	2	1	1	0	投	鏡	2	0	0	0	(三)	渡辺	4	1	0	0	計		36	10	3	0	振球		2	2	0	4	犠盗併残		4	0	0	8	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">大館商</th> <th>打</th> <th>安</th> <th>点</th> <th>失</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>(右)</td><td>阿部</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>打投</td><td>佐々木</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>(遊)</td><td>原田</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>(中)</td><td>藤島</td><td>4</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr> <tr><td>(左)</td><td>小林</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>(一)</td><td>奈良</td><td>4</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>(三)</td><td>野崎</td><td>3</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>(投)</td><td>上野</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>打</td><td>山田</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>投右</td><td>長岐</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>(捕)</td><td>柴田</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>(二)</td><td>秋林</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td colspan="2">計</td><td>29</td><td>3</td><td>0</td><td>1</td></tr> <tr><td colspan="2">振球</td><td>10</td><td>3</td><td>0</td><td>1</td></tr> <tr><td colspan="2">犠盗併残</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>5</td></tr> </tbody> </table>				大館商		打	安	点	失	(右)	阿部	3	0	0	0	打投	佐々木	1	0	0	0	(遊)	原田	3	0	0	0	(中)	藤島	4	0	0	1	(左)	小林	3	0	0	0	(一)	奈良	4	1	0	0	(三)	野崎	3	1	0	0	(投)	上野	0	0	0	0	打	山田	1	0	0	0	投右	長岐	2	0	0	0	(捕)	柴田	3	0	0	0	(二)	秋林	2	1	0	0	計		29	3	0	1	振球		10	3	0	1	犠盗併残		0	1	0	5						
秋田高		打	安	点	失																																																																																																																																																																																																										
(右)	成田	5	0	0	0																																																																																																																																																																																																										
(遊)	佐藤	5	1	0	0																																																																																																																																																																																																										
(二)	飯塚	3	1	0	0																																																																																																																																																																																																										
(捕)	藤原稔	4	2	1	0																																																																																																																																																																																																										
(一)	岡本	4	1	0	0																																																																																																																																																																																																										
(左)	斎藤	3	0	0	0																																																																																																																																																																																																										
(中)	今井	3	2	1	0																																																																																																																																																																																																										
中	藤原清	1	1	0	0																																																																																																																																																																																																										
(投)	大久保	2	1	1	0																																																																																																																																																																																																										
投	鏡	2	0	0	0																																																																																																																																																																																																										
(三)	渡辺	4	1	0	0																																																																																																																																																																																																										
計		36	10	3	0																																																																																																																																																																																																										
振球		2	2	0	4																																																																																																																																																																																																										
犠盗併残		4	0	0	8																																																																																																																																																																																																										
大館商		打	安	点	失																																																																																																																																																																																																										
(右)	阿部	3	0	0	0																																																																																																																																																																																																										
打投	佐々木	1	0	0	0																																																																																																																																																																																																										
(遊)	原田	3	0	0	0																																																																																																																																																																																																										
(中)	藤島	4	0	0	1																																																																																																																																																																																																										
(左)	小林	3	0	0	0																																																																																																																																																																																																										
(一)	奈良	4	1	0	0																																																																																																																																																																																																										
(三)	野崎	3	1	0	0																																																																																																																																																																																																										
(投)	上野	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																										
打	山田	1	0	0	0																																																																																																																																																																																																										
投右	長岐	2	0	0	0																																																																																																																																																																																																										
(捕)	柴田	3	0	0	0																																																																																																																																																																																																										
(二)	秋林	2	1	0	0																																																																																																																																																																																																										
計		29	3	0	1																																																																																																																																																																																																										
振球		10	3	0	1																																																																																																																																																																																																										
犠盗併残		0	1	0	5																																																																																																																																																																																																										
<p>・試合開始11時0分・試合時間2時間35分 【審判】(球)青崎(塁)野口、長谷川、万屋</p>																																																																																																																																																																																																															

四十年（一九六五年）

夏

秋田大会Aゾーン代表決定戦

秋田高は六回、藤原稔と今井の安打の安打で一点、八回にも一点を追加、鑑の好リーフもあって安全圏にはいった。だが10安打はなった打線ではあるが、前半ラフなバッティングで走者が出ると凡飛で退いていたのはいただけない。敗れたとはいえ本大会で見た大館商の健闘ぶりはほめられてよい。[秋田さきがけ]

7 25 八橋 ○ 秋田 2 0 0 1 0 0 0 0 0 3 ○ 鑑—藤原稔
Aゾーン代表決定戦 金足農 0 0 2 0 0 0 0 0 0 2 ▽本塁打=藤原稔▽三塁打=藤原稔、佐藤

県代表は秋田高と秋田商（全国高校野球県予選最終日）

秋高・藤原稔 再度の殊勲打 金農 八回、好機を逸す

秋田高は藤原稔の再度の殊勲打でねばる金足農を押えた。秋田は一回一死佐藤が右中間二塁打し早くもチャンスを迎えた。飯塚は大きな右飛に倒れたが、藤原稔は右中間を深々と破り、一挙三塁に達し、佐藤生還。つづく岡本も金足農三浦投手のカーブをうまく右前にミートして藤原稔もかえって計二点を先行した。三浦は今シーズン秋田を二度もシャットアウトしたが、立ち上がりはいつもよくない。そこをねらった秋田の先制攻撃、外角球のとらえ方も効果的で胸のすくような攻撃だった。だが、金農も二点のハンディをすぐはね返した。三回裏一死、佐々木吉のなんでもない左飛を野手が落球したのが始まり。秋田鑑投手も一、二回に早くも三本の長短打を浴びボールの伸びをやや欠いていた。湊は高目の好球を右中間三塁打し一点を返しなおも一死三塁。強気金農ベンチは鳴海に1-1からヒットエンドランを命じこれが凶にあたって2-2のタイ。鑑の球威を計算に入れたうまい作戦で、試合はこれでふりだしに戻った。

金農の気力も大いに上がり、後半の戦いぶりが注目されたが、四回表藤原稔の大会第二号ホームランがこの期待を一気にふき飛ばした。この回トップの藤原は1-2後、三浦の投じたインコースの高目の好球をいい感じではね返した。打球はぐんぐん伸び左翼スタンド百メートル付近に飛び込んだ。得点は3-2、秋田は再びリードを奪った。

しかし金農は八回表無死で湊が中前安打、鳴海のバントを鑑が二塁に送球したが、野手落球して一、二塁。島崎のバントで送られて一死二、三塁となった。試合は終盤近く金農の反撃気分は濃厚だった。だが1-0後のスクイズは秋田バッテリーにかわされ、走者が三塁上で憤死、金子も三振に倒れ願ってもないチャンスをつぶした。さらに金農は最終一回一死から代打船木の二塁打で一打同点の好機をつかんだが、鑑の速球に押えられてついにダメ、秋田の軍門に屈した。秋田藤原、金農湊の好打といい、金農三浦投手の巧みなピッチングといい、双方ともに実力を出し切った一戦だった。

秋田高 渡辺監督の話

三浦には今まで二試合シャットアウトで負けていたが打ちくずせる自信はあった。とくに三浦は立ち上がりが悪いので一回が勝負と思っていたがうまく安打が続いたので先取点をあげることができた。鑑はやはりかたくなったのかいつもよりスピードがなかった。藤原稔の本塁打は実に良くきいた。勝負はこれからです。

[秋田さきがけ]

秋田高											金足農										
打数	得点	安打	打点	三振	四死	犠打	盗塁	残塁	失策		打数	得点	安打	打点	三振	四死	犠打	盗塁	残塁	失策	
(右) 成田 ③	4	0	1	0	1	0	0	1	1	0	(遊) 佐藤	4	0	1	0	1	1	0	2	2	0
(遊) 佐藤 ③	4	1	1	0	0	0	0	0	0	1	(二) 中泉	4	0	0	0	1	0	1	0	0	0
(二) 飯塚 ③	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	(左) 佐々木吉	4	1	1	0	1	0	0	0	1	0
(捕) 藤原稔 ③	4	2	2	2	0	0	0	0	0	0	(中) 湊	3	1	2	1	0	1	0	0	1	0
(一) 岡本 ③	4	0	2	1	1	0	0	0	2	0	(右) 鳴海	3	0	0	1	0	0	1	0	1	0
(左) 斎藤 ②	3	0	0	0	1	0	0	0	0	1	(捕) 島崎	3	0	1	0	0	0	1	1	1	0
左 藤原清 ③	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	(三) 金子	4	0	1	0	2	0	0	0	1	1
(中) 今井 ③	3	0	1	0	0	1	0	0	2	0	(一) 北島	2	0	0	0	1	1	0	0	1	0
(投) 鑑 ③	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	打 小松	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(三) 渡辺 ③	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(投) 三浦稔	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0
計	34	3	9	3	5	1	0	1	5	2	打 船木	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0
											走 佐々木米	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
											計	32	2	7	2	8	3	3	3	9	1

・試合開始11時0分・試合時間3時間15分
【審判】(球)青崎(塁)高堂、豊間、万屋・観衆一万六千人

▽三塁打=佐々木吉、湊

西奥羽地区大会

【西奥羽地区大会】

【会場】
山形県酒田市
酒田市営球場

決勝戦 8月1日 1時

31日11時

秋田商(秋田) 希望どおり第一試合に

31日14時

米沢商(山形) 攻撃型のチーム コツコツ当ててくる

秋田高(秋田) 大久保投手も立ち直る

上山高(山形) カーブに弱い打線 守備堅く、結び強い

[秋田さきがけ]

昭和	時期	大会	月	日	球場	勝敗	校名	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計	バッテリー・長打
----	----	----	---	---	----	----	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----------

7	31	酒田市営	○	秋田	1	0	3	0	3	3	0	1	1	12	○	大久保、鑑一藤原稔
準決勝				上山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	▽	三塁打=岡本、飯塚、渡辺、成田

甲子園へ 秋田県同士で争う

秋高、”お家芸の猛打” 大久保、上山高を手玉に

秋田高の持ち前の打力が爆発した。上山高先発武田は球威がないだけにシュート、カーブの変化球をコーナーに決めて秋田高打線をかかわそうとした。しかし、秋田高は一回トップの成田が一塁線を強襲して右翼線にころがる二塁打。佐藤はバントを失敗してしりぞいたものの、飯塚が投手強襲安打と続き、一死一、三塁。このあと藤原稔が中堅に高々と犠飛を打ちあげて先攻。三回にはトップの成田がドラッグバントを決めたあと佐藤とのヒットエンドランは遊撃手がベースカバーにはいったすきに三遊間を抜き、成田三進して一、三塁。飯塚の投ゴロで成田が三本間にはさまれて一死一、二塁となったものの藤原稔四球で満塁、続く岡本は2-1後の外角球を右翼越えに痛打して走者を一掃、これで試合は完全に秋田高のペース。先発の大久保は立ちあがりややぎこちなかったが、味方の大量得点にすっかり楽に投げた。上山打線は立ちあがりからドラッグバントなどを多く使って秋田高バッテリーをゆさぶりにかかったが、ききめがなく、四回まで無安打。五回はじめて無死井上智が左前テキサスで出塁したが、続く香曾我部の二ゴロにふれて後続がなかった。

・大久保は完調とはいえず、七回には2四球を許したが、相手の走塁失敗に救われ、九回エース鑑にバントタッチするまで無得点に押えた。[秋田さきがけ]

西奥羽大会準決勝

夏

四十年(一九六五年)

決勝戦のみどころ
秋田高-秋田商
・秋田高打線と秋田商田中投手の対決が最大のヤマだ。田中は・・・スピードはないが大きく割れるカーブと鋭く落ちる二種類のカーブをうまく使い分け、しかもコントロールがよい。これに対し秋田高打線は・・・酒田市営球場は松林に囲まれ無風状態なので打球が風にわざわざいされて押し返される可能性が少ないのは長打力をもつ秋田高にとっては有利だ。・秋田高はだれが先発するかむずかしいところだが、上山高戦のできからみてナインに信頼されている大久保の先発とみる。そして大久保の調子しだいで左の鑑にスイッチする手にでるだろう。・実力はほとんど互角だけに試合の主導権を握ったほうが有利。それだけに立ちあがりのできが勝敗のカギを秘めていそうだ。[秋田さきがけ]

秋田高	打	安	点	失
(右)	成田	5	3	0 0
(遊)	佐藤	5	2	1 0
(二)	飯塚	5	2	0 0
(捕)	藤原稔	4	3	3 0
(一)	岡本	6	3	4 1
(中)	今井	2	1	0 0
左	堀内	1	0	0 0
(左)	斎藤	3	1	2 0
左中	藤原清	1	1	1 0
(投)	大久保	5	1	0 0
投	鑑	0	0	0 0
(三)	渡辺	5	1	0 0
計		42	18	11 1
	振球	2	4	3 6 0 11

上山高	打	安	点	失
(二)	鈴木正	4	1	0 0
(左)	鈴木光	2	0	0 0
走左	永井	1	0	0 0
(三)	原田	3	0	0 2
(一)	小林	4	0	0 0
(右)	高橋	1	0	0 0
打	奥山	1	0	0 0
右	井上健	1	0	0 0
(捕)	井上智	4	1	0 0
(遊)	香曾我部	2	1	0 1
(投)	武田	2	0	0 0
投	小笠原	0	0	0 0
(中)	大須賀	2	0	0 0
計		27	3	0 3
	振球	8	5	1 1 0 6

・試合開始14時0分・試合時間2時間25分
【審判】(球)横倉(塁)阿部、高橋、菊地

8	1	酒田市営	○	秋田	0	0	1	1	1	0	0	0	1	4	○	鑑、大久保一藤原稔
代表決定戦				秋田商	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2	▽	三塁打=佐藤、藤原清

秋田高 春に続いて甲子園へ

打線、秋田商を圧す 大久保が好火消し

秋田高は長打力と大久保の好リリーフで秋田商を振り切った。・決勝は最初から荒れもように展開された。先攻の秋田高は一回トップの成田が秋田商田中のカーブをいきなり強振。打球はなんでもない二塁ゴロだったが、野手の前で大きくはね上がり右前ところがる不規則安打、続く佐藤は定石どおり一塁側にバント、さらに飯塚の左前安打で一、三塁と早くも絶好の先制機を迎えた。田中は立ち上がりから苦しいピッチングだったが、ゆっくり間あいをとって藤原稔を低めのカーブで投ゴロに打ち取り一-六-三の併殺でこのピンチを切抜けた。

秋田高の先発は左の鑑。タマは速かったがカーブが決まらずこれも不安なスタートだった。・二回秋田商は無死四球の後藤をバントで送り、田中の右前安打で一死一、三塁。続く小林は1-3後、スクイズに成功、先制点をもたらした。しかし秋田高はすかさず反撃に出た。三回一死後、佐藤が右中間を抜く三塁打。飯塚も四球で一、三塁と一回と同じ好機をつかんだ。・藤原稔にバントさせた。打球は捕手前ところがる間に三塁走者佐藤は捕手のタッチをかいくぐって生還タイに追いついた。さらに四回一死後遊撃を強襲した鑑がカバーした野手のトンネルに恵まれて三進、斎藤のスクイズでかえって逆にリードした。

西奥羽大会決勝

…秋田高は五回にも飯塚、藤原稔が左翼線に連続二塁打して三点目をあげた。…いずれも打力の秋田高らしい豪快な当たりだった。
 …八回、秋田高に思わぬピンチがおとずれた。…ここで秋田高ベンチは前日、上山高戦で好投した大久保をリリーフに送った。大久保は最初の後藤にストレートの四球を与え、無死満塁としたあと代打三浦に右犠飛をかませられ一点を許し、なおも一死二、三塁とあぶなかったが、続く田中と代打中泉を得意のカーブで打ち取り、最少失点に切り抜けた。
 一点差に迫られた秋田高は最終回、一死後、藤原清の左越え三塁打、渡辺四球で出たあと成田の中犠飛で一点追加、再び二点差とした。この一点は、反撃を期す秋田商にとって大きな負担だった。その裏秋田商はラストの藤林から攻撃がはじまり、なんとか塁に生きようと力んだものの大久保の快速球に振りおくれついに涙をのんだ。
 秋田商は九回を除いて毎回走者を出しながらここの一番で快打が出なかった打力の不振が敗因のすべてだった。

よくやってくれた

秋田高渡辺監督の話

田中には最初から自信を持っていた。一回の好機をものにしているともっと楽に勝てたろう。鑑は後半よくなったが、打たれてはいなかったののでできれば完投させたかった。
 大久保のリリーフも予定どおりだ。選手たちはほんとうによくやってくれた。甲子園では今度こそ上位を目ざしたい。

[秋田さきがけ]

秋田高											秋田商										
	打数	得点	安打	打点	三振	四死	犠打	盗塁	残塁	失策		打数	得点	安打	打点	三振	四死	犠打	盗塁	残塁	失策
(右) 成田 ③	4	0	1	1	1	0	1	0	1	0	(中) 佐野	4	0	1	0	1	1	0	2	2	0
(遊) 佐藤 ③	4	1	2	0	0	0	1	0	1	1	(右) 河内	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(二) 飯塚 ③	3	1	2	0	0	1	0	0	1	0	(三) 久米	1	1	0	0	0	3	0	0	2	0
(捕) 藤原稔 ③	4	0	1	2	0	0	0	0	1	0	(左) 笹淵	4	0	2	0	0	0	0	0	2	1
(一) 岡本 ③	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(一) 後藤	0	1	0	0	0	3	1	1	2	0
(中) 今井 ③	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	(捕) 渡辺	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0
(投) 鑑 ③	2	1	1	0	1	1	0	0	1	0	打 三浦	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
投 大久保 ②	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	捕 長沢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(左) 斎藤 ②	1	0	0	1	0	1	1	0	1	0	(投) 田中	4	0	1	0	0	0	0	0	1	0
左 藤原清 ③	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	(遊) 小林	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0
(三) 渡辺 ③	3	0	1	0	1	1	0	0	1	0	打 中泉	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
計	31	4	10	4	4	4	3	0	7	1	遊 保坂	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
											(二) 藤林	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
											打 柳原	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
											計	27	2	4	2	3	7	4	3	9	1
											▽併殺2										

・試合開始13時4分・試合時間3時間16分

【審判】(球)横倉(塁)長倉、西塚、後藤

昭和40年(1965年) 第47回全国高校野球選手権大会 秋田高校の足取り

月 日	主な足取り	会場・場所	具体的内容
8 1	春に続いての甲子園	酒田市営球場	西奥羽大会は同県勢同士のライバル対決で、秋田商に4-2で勝利。昭和31年(1956年)以来9年ぶり、通算12回目の出場。 ・優勝の瞬間、興奮した土手クラブのファン数人がグラウンドに飛び降り、さっそく渡辺監督にだきついた。
8 7	いざ甲子園へ出発	秋田駅	秋田高ナイン(橋本長康部長以下一行二十七人)は、秋田発午前九時五十一分発金沢行き急行「しらゆき」で壮途についた。 かん灯の観光客でにぎわう秋田駅前はこの朝八時前からナインの門出を見送る同校応援団や父兄、先輩、ファンでごったがえした。 ・われるような拍手と声援。 ・ナインは金沢で急行「つるぎ」に乗り換え、大阪到着は八日朝の予定。 大阪の宿舎は西宮市産所町三二 永楽荘(TEL西宮②1682)
8 8	甲子園で初練習	甲子園球場	昼前に甲子園で初練習を行った。・主軸らは外野深くライナーを連発して見物の大阪ファンの目を見張らせる。・両投手ともマウンドが八橋球場と変わらないというので見守った伊藤コーチらは一安心。
8 11	抽選会 県人会が激励会	新朝日ビル 大阪企業クラブ	・緒戦の相手は地元大鉄と決まった。・抽選会場の大阪中之島、新朝日ビルで飯塚主将がクジを引いた。・ナインは昼食後、先輩の伊藤紘氏(元秋田高教諭)の勤める芦屋高校グラウンドを借りて二時間近く練習。・午後五時半から大阪企業クラブで開かれた近畿県人会(進藤竹次郎会長)主催の激励会に出席、大会での健闘を誓った。
8 14	練習	芦屋高校	・七十人の応援団が大阪に着いたのをはじめ父兄”土手クラブ”のファンたちも多数甲子園にほど近い西宮市内に宿をとり、きょうの第一戦をまちかまえている。午後零時半から芦屋高校グラウンドで一時間半にわたり練習。
8 15	大鉄にサヨナラ勝ち (一回戦)	甲子園球場	○秋田高4-3大鉄 大鉄にサヨナラ勝ち 13回、藤原稔が決勝打
8 16	練習	芦屋高校	・ナインは休養後、午後四時半から芦屋高で二回戦にそなえて練習を行った。
8 17	日大二に逆転勝ち (二回戦)	甲子園球場	○秋田高5-3日大二 堂々、準々決勝へ進出
8 20	初回から津久見を圧倒 (準々決勝)	甲子園球場 地元秋田	○秋田高13-1津久見 こんどは準決勝だ！ 仕事もストップ 県民の目と耳 テレビ・ラジオに集中 ・秋田高では試合時間中、補習授業を中止、図書室にテレビをそなえて中山教頭ら職員、生徒百五十人が大声援。・ナインの活躍ぶりにあらしのような拍手。・会社、官庁、病院、駅……、どこもテレビの前は黒山の人。
8 21	三池工に1点に泣く (準決勝戦)	甲子園球場	●秋田高3-4三池工 一点に泣く 六回、恨みの併殺
8 23	東京で歓迎会	八芳園(芝)	午前十一時半特急”こだま”で東京に着いた。上野の県東京宿泊所で休憩ののち午後一時すぎから日劇観覧、夕刻からは芝「八芳園」で開かれた在京先輩らの歓迎会にのぞみ、熱戦のあとを報告したのち、夜上野発急行”津軽”で帰秋した。
8 24	秋田に帰る	秋田駅	秋田高ナインは午前八時二十五分秋田着特急”津軽”で元気に帰秋した。秋田駅四番ホームは一足先に帰った鈴木校長や選手の家族、それに同校生、先輩、ファンでいっぱい。・飯塚主将を先頭に岡本、鏡、藤原稔選手らが続き、橋本部長、渡辺監督も歓迎の人波にかこまれた。 ・午前十一時すぎから秋田市内をパレード・

(『秋田魁新報』の記事をもとに作成)

Ⅲ. 大旗に向かって突き進め(いまふり返るあの夏の日々)

【大会予想】いまから約半世紀前、正確には47年前の昭和40年(1965年)の第47回全国高校野球選手権大会は福岡代表の初陣三池工業が栄冠を得た大会であった。参加は代表30校。最多出場回数は北北海道の北海の23度目、そして次が秋田の12回目と続き、以下はみな一桁の出場回数。名門とされるあの広陵、高松商、徳島商ですら9回目で、銚子商が4度目というフレッシュ校だった。朝日新聞の大会前の戦力分析によれば、その年の春の選抜に優勝した好投手平松を擁する岡山東商や高松商、徳島商の四国勢を筆頭に、銚子商・報徳学園・津久見あたりがこれに続くことあり、秋田高校については特段触れられていない。しかし、予選の成績からは投打にバランスが取れた戦いぶりが見てとれ、ひそかに期待できるものがあつた。

【予選の成績】 主な出場校の投手成績と打撃成績[朝日新聞] 【注:この予選記録は秋田魁新報のテーブルスコアの総計と一部相違あり】

【 チーム投手成績 】						【 チーム打撃成績 】													
校名	投手名	回数	被安打	三振	四死	失点	試合	打数	得点	安打	二塁打	三塁打	本塁打	三振	四死球	犠打	盗塁	失策	打率
秋田	鏡・大久保	50	26	44	17	6	6	203	39	68	15	1	1	18	17	8	32	4	.335
銚子商	木樽・鮎原	56	18	74	4	2	7	212	50	68	10	5	4	23	24	10	28	3	.321
東邦	北角	53	21	54	15	2	6	174	21	45	9	1	0	21	20	10	5	3	.259
報徳学園	谷村・前田・深草	51	22	48	9	2	6	181	29	42	7	4	1	24	28	6	20	1	.232
岡山東商	平松	62	34	53	7	6	7	218	28	55	9	6	1	24	29	10	15	7	.253
高松商	小坂・吉原	39	28	43	13	8	5	144	34	48	5	6	0	10	30	9	18	4	.333
徳島商	利光	42	22	21	7	3	5	146	26	41	6	6	0	11	12	6	7	7	.281
三池工	上田・林	59	17	53	15	8	7	228	39	76	11	5	2	32	22	10	17	3	.333
津久見	三浦・浅田・木村	50	25	50	14	6	6	214	57	74	8	5	2	12	27	4	17	5	.345
高鍋	牧	53	22	58	14	2	6	192	26	59	7	0	0	20	24	9	9	4	.307

【注目の選手】 投手では右の本格派の平松(岡山東商)、木樽(銚子商)、牧(高鍋)、谷村(報徳学園)、河本(広陵)、北角(東邦)、左腕の小坂(高松商)、岡(保原)ら。巧投手としては利光(徳島商)、外山(天理)があげられ、打者に目を移すと、若松(北海)、阿天坊(銚子商)、内田(東海一)、福本(大鉄)、門田(天理)、荒武(報徳学園)、岩崎忠義(津久見)らが注目されていた。この年から導入されたドラフトに上位指名され、プロ入り後は200勝や最多盗塁記録、500本塁打、2,000本安打、MVPなどに輝くことになるこれらそうそうたる選手たちの顔ぶれを見れば、この大会のレベルの高さがうかがい知れよう。

準決勝までの熱闘全4試合詳報

◆一回戦(八月十五日:大会第3日)

【見どころ】粘りの大鉄と鏡投手の対決 秋田-大鉄

左の本格派鏡対速球に強い大鉄打線の勝負である。鏡は今春の選抜大会では評判倒れに終わったが、今夏は相当な進歩が見られる。それに救援の右投げ大久保が鏡以上の球速を持っている。打線も上位五人は三割五分の強打。大鉄は高橋、藪中を中心にしぶとい打線を組んで、押しの一手で攻めまくる。守備は互いにソツがない。だが、大鉄には地元の利があり、秋田は細かい野球が不得手だ。大鉄が同じ力の投手三人の起用を誤ると秋田の上位打線に長打を浴びる危険がある。秋田が先行すれば面白い。[朝日新聞]

秋田サヨナラ勝ち 延長13回藤原稔が殊勲打

	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	計	
● 大鉄(大阪)	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	・試合開始 午後3時12分
○ 秋田(西奥羽)	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	1	4	・試合終了 午後6時29分
															・試合時間 3時間17分

【評】大鉄も秋田も死力を尽くして素晴らしい試合をした。まず大鉄が一回福本四球、すぐ二盗した。出ばなのこの奇襲で秋田は投手も野手も浮足立った。北岡は三塁線へバント、あわてた三塁手は間に合わない一塁へ悪投した。福本生還。1点先取した大鉄は二回も鋭く攻めた。堀内左へ二塁打。山田の遊飛も落球に救われた。こども大鉄はバント戦法、宮原のバントは内野安打になって無死満塁。一死後、北岡が中前安打、高橋二ゴロで大鉄は二点を加えた。ふだんにない秋田のこの乱れよう。やはり大会のふんいきにのまれていたからだろう。三回からは投手も野手も落ち着いてきた。鏡は左腕をよくのばして速球を慎重にきめる。打線も次第に球が見えてきたようだ。山田の左腕からくりだすクロスボール、カーブに毎回三振していたが、五回先頭の岡本が左中間を抜いた。二塁打。鏡は四球、今井バントで走者を進め、斎藤が犠飛を打上げて一点。六回は連続三振していた成田が右ラッキーゾーンへ本塁打した。大鉄の一方的に見えた試合はがぜん白熱した。七回大鉄が一死一、二塁になると秋田は右の大久保をリリーフに送って後続を断つ。"ダメ押し"の一点が取れない大鉄はむしろ苦しい試合になった。八回は三者三振。その裏二死一、二塁のピンチになったが、佐藤のヒット性二遊間ゴロを堀内が身をていして防いだ。いよいよ九回。大鉄山田投手の表情も堅い。飯塚四球、藤原も歩いた。無死一、二塁。逆襲一、秋田が色めき立った次の一瞬、二塁走者が投手のけん制球に刺された。これで反撃も絶望に見えたが、岡本は1-1から外角直球にとびつくように右中間へ二塁打した。同点。延長後も気力と気力で火花を散らす。十二回二死一、二塁で渡辺左前安打、二塁走者の今井は本塁をついたが、左翼手からの好返球でアウトだが、秋田は十三回成田一ゴロ内野安打、バントで二進、飯塚の大きな右飛で三塁へ進む。藤原稔は第一球をねらって打ち、中堅手と二塁手の間へポトリ。ついに秋田が勝った。肩を落してうなだれる山田だが、よく投げたと思う。三時間十七分を戦い抜いた両チームの選手たちに称賛の拍手を送りたい。(田中)[朝日新聞]

【評】点をとられたあと、すぐに取返して逆転した秋田。コツン、コツンと投球にさからわずに当てていく打法で、あっという間に五点を積み重ねた。鑑の四球がきっかけ、捕逸で二進した。斎藤は型どおりに三塁線へバント、神山が追ったがつかまえるだけで精いっぱい、無死一、三塁となった。渡辺の0-2から斎藤とヒット・エンド・ラン。ねらいはよかったし、打球もベースへはிரりかけた執印(しゅういん)の逆をついて飛んだ。鑑がかえり、斎藤は三塁へ、渡辺も右翼手が球をはじいたスキに二塁を踏んでいた。神山の投球は高目が多くなる。成田も流し打ちで左前へたたき、斎藤を迎え入れて二点目。佐藤は投ゴロだったが、飯塚の右翼線へ流した安打で渡辺、成田とこえた。

さらに二盗した飯塚が岡本の二遊間安打でホームイン。少しも派手さはないが、いかにも高校野球らしい攻め方と、バッテリーの動揺をついた二つの二盗をはさみ、五安打で五点はあっばれだった。この思いもかけない逆襲に、岡山東商を倒した日大二も一瞬たじろいだとみえる。四、五回のチャンスをつぶしたのも、なんとかしなければの焦りからだろう。

日大二は二回に右中間を大きく破った三塁打の長谷川を、神山が左前へ打って返しリード。四回には鑑から長谷川、神山が四球で無死一、二塁と攻めた。ところが代った大久保に、福井がバントしようとした二球目をから振り、塁を出すぎた長谷川が捕手のけん制球で刺された。これでせつかくの盛り上がりもぶちこわし。五回も代打の大沢が捕手の打撃妨害で出てから一死二、三塁と攻め、窪田の左翼線をライナーで抜く二塁打が続き二点を返したのに、その窪田が三盗をはかってアウトになった。

まだこれから差をつめていかねばならないときに、三塁へ走ったのはいささか冒険すぎた。判断の誤りで自滅していくチームが高校野球に多い。

秋田はまた鑑から大久保へのリレーがうまくいった。コントロールの甘かった鑑と対照的に、二年生の大久保は落着きはらったピッチングで、巧みに日大二の打気をかわした。大鉄に続いて日大二と都会チームの攻撃を食い止めて、立派な勝ちぶりだった。(吉田)[朝日新聞]

【観戦記】秋田応援席には高さ五メートルもある紅白の帽子をかぶったようなぼんてんが立っている。武運長久の神社で知られる秋田市の三吉神社から同校私設応援団の『土手クラブ』の人たちが運んだものだ。

その威力を発揮したのは三回。1点をリードされたが、三回に集中打して5点の奪取。

第一回大会で前身の秋田中が決勝進出したときの主将だった渡部純司大先輩(69)の顔も応援席にみえる。「感激だな。このようにあっさり逆転するとはね」

四回裏エース鑑が連続四球を与えて無死一、二塁。試合開始ごろからずっと投球練習をしていた大久保に声がかかる。

「大久保いけ」

リリーフの好きな大久保は”待ってました”とばかりにいさぎよくマウンドに上がり、日大二の反撃をしめくくって連続の勝利投手。「ボクは走者は全く気になりません」

同じ火消し投手の巨人宮田が好きで、宮田投手の出るテレビは必ず見るそうだ。しかし彼もまだ二年生。バット運びも役目の一つ。六本のバットをかついで帰路のバスに向かう。

一回戦で岡山東商を破りながらの完敗に口惜しがるのはネット裏の永六輔氏。彼は日大二の高本監督が永さんらのバラエティショー『夢であいましょう』のタレント谷幹一さんの弟に当るので、この朝、飛行機で駆けつけたもの。「谷の分もと思ってきたのについてねえな」と口惜しがる。高本監督は「すべてわたしの失敗でした」がっかりしたサインをしきりにかばった。[ベースボールマガジン]

秋田											日大二										
学年	打数	得点	安打	打点	三振	四死	犠打	盗塁	失策		学年	打数	得点	安打	打点	三振	四死	犠打	盗塁	失策	
(右)成田	③	5	1	1	1	3	0	0	1	0	(中)窪田	③	4	0	1	2	1	0	0	0	0
(遊)佐藤	③	4	0	1	0	0	0	0	1	0	(二)執印	③	4	0	1	0	0	0	0	0	0
(二)飯塚	③	4	1	1	2	1	0	0	1	0	(捕)菅井	③	4	0	0	0	0	0	0	0	0
(捕)藤原稔	③	3	0	0	0	1	1	0	0	2	(一)長谷川	③	3	1	1	0	0	1	0	0	0
(一)岡本	③	4	0	3	1	0	0	0	0	0	(投)神山	③	3	0	1	1	1	1	0	0	0
(中)今井	③	3	0	0	0	1	0	1	0	0	(左)福井	③	3	0	0	0	0	0	0	1	0
(投)鑑	③	1	1	0	0	1	1	0	0	0	(右)川村	③	1	0	0	0	1	0	0	0	1
投大久保	②	1	0	0	0	0	1	0	0	0	打右大沢	③	1	1	0	0	1	0	0	0	0
(左)斎藤	②	3	1	1	0	1	1	0	0	0	(遊)前田	②	2	0	0	0	0	1	0	0	0
走中藤原清	③	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(三)丸山	③	2	1	0	0	0	1	0	2	0
(三)渡辺	③	2	1	1	1	0	1	1	1	0	残塁3		27	3	4	3	4	4	1	2	1
残塁5		30	5	8	5	8	5	2	4	2											

投手	回数	打者	安打	三振	四死	失点	自責
鑑	3	14	2	2	3	1	1
○大久保	6	19	2	2	1	2	1
●神山	9	37	8	8	5	5	4

▽三塁打=長谷川▽二塁打=窪田▽併殺=秋田1・日大二1▽捕逸=菅井▽妨害出塁=大沢(藤原稔)

【審判】(主)永野(塁)多田、桐田、松南

【ひとくちメモ】①クジ運に強い伝統：秋田が日大二に勝って準々決勝進出を決めた。秋田が二試合勝ったのは、準決勝まで進出した昭和九年の第二十回大会以来三十一年ぶりという久々のもの。秋田の球史は古く、大正四年の第一回大会に出場、いきなり決勝まで進出し、京都二中に延長十三回2-1で惜敗している。はたしてことしはどうだろうか。渡辺監督は「欲ばらず、一戦一戦ベストをつくす」といつていたが……。

秋田はもう一つめずらしい記録を持っている。ことしで十二回目の出場だが、そのうち八度目は一回戦が不戦勝。とくに第十九回大会から二十、二十三、三十五、三十六、三十八回と出場するたびに連続して一回戦は不戦勝だった。よほどクジ運のいい学校らしい。[朝日新聞＝「ネット裏」より]

②感激する秋田OB：第一回全国中等野球大会決勝進出当時の秋田中主将、捕手の渡部純司さん(69)が後輩の応援にかけつけたが、「いや、もう感激で感想の言葉も出ませんよ。ここまでやるとはね。点をとられても打返していったことが勝因ですな。この調子ではわしに次いで二回目の決勝進出も夢じゃありません。甲子園ははじめてきましたが、豊中球場時代の野球技術や応援とは天地ほどの差があります。むかしの少なかった観客などを思い浮かべると全く感慨無量ですなあ」と。[朝日新聞＝「ネット裏」より]

【二回戦を終えて】一回戦に続き、見事な逆転勝利。しかも激戦区の大阪、東京の代表校を倒した戦いぶりは“東北に敵無し”の面目躍如だ。大鉄戦では長打で、日大二戦では単打による集中打でその打棒を如何なく発揮。守っても大久保が好救援で反撃を押さえ、ただいま絶好調。あとは、先発鑑の投球が本来の姿に戻ることで。

◆準々決勝(八月二十日：大会第8日)

【見どころ】ねばりの秋田 打力の津久見 秋田-津久見

秋田はわずかな好機をものにし鑑、大久保両投手の継投策で切抜けてきた。攻、守によくバランスがとれ、なかなかよくなねばる。津久見は打撃のチームだ。一回戦の海星には10安打で7点をあげて打勝ったし、二回戦でも優勝候補の徳島商の利光投手も打ちこんだ。バットを短か目に鋭く振切る投手泣かせのバッティングをする。この打力を秋田の両投手がどこまで押えるかが、勝負の別れ目。

これまで秋田は二試合とも鑑が先発して大久保が救援した。鑑は二試合で九回三分の一投げて被安打11、大久保は十二回三分の二投げて被安打4、大久保の方が安定している。秋田にとって鑑の切替え時機がむずかしい。継投機につけ込まれると苦しくなる。[朝日新聞]

秋田、着実な試合運び

	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計	
○ 秋田 (西奥羽)	3	0	0	3	1	0	6	0	0	13	・試合開始 午前8時29分
● 津久見 (中九州)	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	・試合終了 午前11時9分
											・試合時間 2時間40分

【評】前日、あれほどうまく徳島商を押えた津久見の三浦も、さすがに疲れはかくせなかった。体力がないだけに連投はよけいにこたえる。一回から早くもピンチにさらされた。成田が二球目のカーブを手もとにためて中堅の右へたたいたのがはじまり。佐藤はバントとみせて内野手を前へ寄せておき、ライナーで左前へ打つ。球がゆるく、しかも高目へきたので簡単にこんな細工もできる。飯塚は三塁前にバント、これを岩崎忠があわてすぎて一塁へ高投した間に、成田は一気に本塁を踏んだ。

プレーボールからわずか四球目の一点、走者も二、三塁だ。一死後岡本の中飛で佐藤かえり、鑑も一、二塁間をゴロで抜いて、飯塚をかえした。

三点、津久見はいきなり大変な負担を背負った。だが中九州の代表をかけて争った八代東との決勝でも、一回にちょうど同じ三点をリードされている。打線に火が付きさえしたら、これぐらいなんでもなかったろう。その裏太田は右飛だったが、原四球で足がかりをつかんだ。鑑は相変わらず制球が甘い。ところが津久見のベンチはこの原に二塁へ走らせアウトになった。すぐそのあとに岩崎忠が四球で出ているから、原の二盗は大失敗。岩崎忠はともかく二盗して、投手のけん制悪投、中堅の三塁悪送球に一点を返したが、続いて四球の佐々木がまた二塁へ走って刺された。点差、イニング、投手の出来、のどこからみても無謀。こんな作戦では甲子園で勝てない。三浦の調子が悪かった上、攻撃でも津久見は一回から自滅への道を歩んだ。

秋田は四回、岡本の右中間三塁打から四安打で三点、五回は藤原稔の左中間二塁打をもとに一点、七回は五安打の集中で六点と打ちまくった。ここで一つ目につくのは、これだけのリードをしながら、無死で出た走者はかならずバントで塁を進め、確実に点を増やしていったことだ。先発の全員安打などはたしかに二の次である。

日大二とやった二回戦でも、いかにも高校野球らしい運びが目をついたが、三試合を勝ってベスト4に進出したのも当然の試合ぶりである。(吉田)[朝日新聞]

【観戦記】猛打の秋田とい故障だらけの津久見三浦投手。一、二回戦はなんとか持ちこたえたが、この日は八時半の試合開始だったため腰の痛み止め注射も打てず、体力は限界に近い。体重は50*を割っている。フラフラとくる球。秋田がガツンと見舞う。ついに二年ぶりの全員得点と先発メンバー全員安打で大量13点。誇らしく校旗掲揚を見つめる秋田ナイン。三十一年ぶりに堂々のベスト4を果たしたのだ。

一番喜んでいるのは初完投の鑑。試合前渡辺監督に「完投させてほしい」といったが、「大久保を使う考えは全然なかった」渡辺監督にいわせたほどの奮起ぶり。

応援席では鑑投手の両親、武夫さん(50)、セツ子さん(48)と姉の千鶴子さん(20)さらに千鶴子さんのヒザにはことしの二月に病死した兄の一紀さんの遺影があった。「きょうはマイペースだった」と渡辺監督。鑑は、「四球を出さないよう気をつけた」ヒーローにしては小さい声だ。

悄然とする津久見ナイン。「ぼくはまだ二年生なので……」ほほがゲツリりけ、あふれる涙をこらえられぬ三浦。「三浦に可哀そうだった」と児玉部長。[ベースボールマガジン]

秋田											津久見										
学年	打数	得点	安打	打点	三振	四死	犠打	盗塁	失策	学年	打数	得点	安打	打点	三振	四死	犠打	盗塁	失策		
(右)成田	③	4	1	2	1	0	0	2	0	0	(右)太田	③	4	0	0	0	0	0	0	0	0
(遊)佐藤	③	5	2	3	2	0	1	0	1	1	(左)原	③	3	0	1	0	0	1	0	0	1
(二)飯塚	③	5	1	1	1	0	0	1	0	0	(三)岩崎忠	②	3	1	0	0	0	1	0	1	2
(捕)藤原稔	③	4	2	2	0	1	1	0	0	0	(一)佐々木	③	3	0	1	0	0	1	0	0	0
(一)岡本	③	4	2	2	1	0	0	1	0	0	(遊)岩崎秀	③	3	0	0	0	1	0	0	0	0
(投)鑑	③	4	1	3	3	0	0	1	0	1	打竹中		1	0	0	0	0	0	0	0	0
(中)藤原清	③	3	1	2	1	0	0	2	1	1	(捕)石井芳	③	4	0	1	0	0	0	0	0	0
(左)斎藤	②	3	1	1	0	0	0	0	0	0	(中)山橋	③	4	0	0	0	0	0	0	0	0
打左今井	③	1	1	0	0	1	1	0	0	0	(投)三浦	②	3	0	1	0	0	0	0	0	0
(三)渡辺	③	4	1	2	3	1	0	1	0	0	(二)土岐	②	2	0	1	0	1	1	0	0	0
残塁8		37	13	18	12	3	3	8	2	3	残塁6		30	1	5	0	2	4	0	1	3
投手	回数	打者	安打	三振	四死	失点	自責				▽三塁打岡本▽二塁打=藤原稔▽併殺=秋田1・津久見2▽暴投=鑑▽ボーク=三浦 【審判】(主)小西正(塁)三宅、小林、角田										
○ 鑑	9	34	5	2	4	1	0														
● 三浦	9	48	18	3	3	13	6														

【ひとくちメモ】①三十一年ぶりの準決勝進出。その三十一年前とは七回目の出場の出場の1934年(昭和9年)の第20回大会。二回戦福島師範に5-1、準々決勝敦賀商に17-7、そして準決勝で呉港中に0-9で破れた。秋田中は敦賀商戦で大会2校目の全員四死球、また17残塁と両軍合わせての29残塁は大会残塁最多記録。なお、この大会の優勝校呉港中の投手はあのミスター・タイガース藤村富美男だった。当時の秋田中のメンバーは[投]梅崎作太郎・[捕]三浦一夫・[一]三浦英二・[二]加賀屋幸次郎・[三]中野金之助・[遊]武田武・[左]高橋政泰・[中]山谷喜志夫・[右]佐藤監一・[控え]山中寿雄・西村正・林安春・大門時次・鈴木英一、監督高橋逸郎。②先発全員安打は大会史上13度目。③全員得点は大会史上23度目。

【準々決勝を終えて】快勝。豪快な打撃が看板の津久見のお株を奪う攻撃で三十一年ぶりに準決勝に駒を進めた。心配されていた鑑も完投。一戦ごとに力をつけ、頼もしい限りだ。朝日新聞の【評】にもいかにも高校野球らしい試合運びだとその戦いぶりを称賛している。悲願まであと2勝。あすは伏兵三池工業との戦いだ。鑑から大久保へのスイッチのタイミングと上田を打崩せるかがポイント。

◆準決勝(八月二十一日、大会第9日)

【見どころ】ともに強打で打撃戦展開か 秋田-三池工

高松商を緒戦で撃破した三池工は初陣のハンディを吹飛ばして一戦一戦調子をあげ、東海一、報徳学園を連覇した。秋田も地元のうるさい大鉄に逆転勝ちしたあと、日大二、津久見を問題にしない快調さ。両チームの特徴は、どちらかといえば、押し押しの攻撃型。三池工は今大会の打率が、なんと一三七打数四二安打の三割三分一厘の高打率を誇り、たたき出した得点十六。秋田は一〇八打数三六安打の三割三分三厘。どちらも強打だ。投手陣は三池工が左腕の上田投手一人だけで切抜けたのに対し、秋田は左腕の鑑投手を先発させ、救援に右投げの大久保を使う二段構え。この投手力は勝抜いてきた三試合を見るかぎり互角だが、二人で投げている秋田には、一人の三池工より多少なりともスタミナが残っている。しかし、秋田には継投の時機を考えなくてはいけないむずかしさがある。守備は三池工が二失策、秋田が七失策で三池工がいい。勝負は、どちらが早く相手投手をつぶすかにある。強いて優劣をつければ、守備のいい三池工がわずかながら有利ではなかろうか。[朝日新聞]

瀬口、逆転の三塁打 三池 秋田の追撃ふり切る

	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計	試合開始	午後2時46分
● 秋田(西奥羽)	0	1	0	0	2	0	0	0	0	3	試合終了	午後5時1分
○ 三池工(福岡)	1	0	0	0	3	0	0	0	×	4	試合時間	2時間15分

【評】苦投の連続とは、この日の三池工上田投手のことをいうのだろう。高松商、東海一、報徳の三試合を投抜いてきた左腕も抜けよとばかりの精魂をかたむけ、ついに継投の秋田に投げ勝った。疲れがありありと見えながらも黙々と投げる。二回秋田岡本にうまく右中間を抜かれる三塁打を浴び、鑑には二塁手の左へ内野安打でタイに持込まれた。そして五回逆転された。この一回死後斎藤に右翼線二塁打、さらに渡辺には真中にはいるカーブを左中間三塁打、しかも成田には外角へのカーブを一、二塁間を抜かれてたちまち二点の負担を背負った。三池工の打線は一回、下川の左中間適時打で先行したが、鑑の高目の球につられていっこうにチャンスがつかめな。上田に重荷がかかるばかり。だが上田の力投にこたえる快打が出た。リードされた五回裏一死満塁に瀬口が右中間へ走者一掃の殊勲の三塁打を放って再び勝越した。瀬口は2-2と追込まれた。このカウントでは絶対投手の勝ちともいえるべき条件、それなのに瀬口の気力鑑の投球をどらえたのだ。がっかりきた鑑、しばらくウォーミングアップを休んでいた大久保があわてて投球練習をはじめた。大久保の救援に追加点をはばまれたが4-3と形勢をもう返した。

だが疲れの色が濃い上田には油断が禁物。六回絶体絶命ともいうべきピンチに立った。先頭の藤原稔に二塁手の左を破られ、岡本を四球に出し、大久保の三塁側バントを足の疲れから出足も悪く内野安打として無死満塁、ベンチに呼戻されたバッテリーはうなだれるだけ、監督に背中をたたかれて再び上田はマウンドへ。藤原清を2-3後内角球で三捕一併の併殺、一瞬に二死をとった。斎藤を中飛にうちとけて最大の難場をのがれた。藤原清への一投はまさしく気力以外のなにものでもなかろう。好チーム秋田に位負けせず攻守が一丸となってもり立て、勝ちとった三池工、熱球譜の一戦だったといえる。(池北)[朝日新聞]

【観戦記】両校の打力は三十校中の一、二位。したがって第一試合(注:この前に行われた試合=銚子商2-1高鍋。大会一、二を争う好投手銚子商木樽と高鍋牧の緊迫した投げ合い)とは対照的に変化が激しい。一回三池工が下川の三塁打で先制すると、秋田は二回岡本の三塁打を口火にすぐ同点。「こりゃどちらが勝つかわからんよ」と野球評論家の成田理助氏。

五回にまた秋田の強打線が火を吹く。一死後斎藤、渡辺、成田が連続長単打で、あっという間に2点が入る。左腕をぐるぐる回して「どうもおかしい」と頭をかしげる上田。しかしこれではおさまらない。秋田の鏝が突如乱れる悪いクセを出した。一休止していた第二投手の大久保がまたベンチ前でウォーミングアップを始める。一死満塁のピンチを迎えて盛んにベンチを気にする鏝。渡辺監督が大久保に目をやる。「代えようか。でも1本打たれたって同点だ」

迷いがいけない。2-3後、三池工の瀬口が外角高目を右中間最深部にもっていく走者一掃の三塁打。小さい瀬口が脱兎のようにかけ込むと、原監督が拍手でたたえる。秋田は最悪事態の終わったあとで大久保を出したが、もうおそい。

しかし六回秋田は、無死満塁。“月が出た出た”の『炭坑節』が終わると秋田の太鼓が高鳴る。ベンチに呼び戻されてもうなだれるだけの三池工バッテリー。藤原清に対し、2-3.上田は高くふりかぶって思い切って内角に投げる。5-2-3と渡る併殺だ。

秋田に二度目の最悪事態。嘆声が長くもれる一塁側と対照的に、ドヨメキの続く三塁側。

乱戦が終わって、両校ナインはヘトヘトの感じ。

「多分についていましたね」といつもよりは声の小さい原監督。上田投手も、「本当に苦しい試合だった。六回のピンチも運を天にまかせました」

ただ逆転三塁打の瀬口は少しも疲れたようすをみせずご機嫌。きのう宿舎に父親広さん(59)が訪れ、好物のブドウとバナナを差し入れられ勇気百倍だった。

敗戦の瞬間、天を仰いだ秋田渡辺監督、「わたしの失敗が敗因です」ほほを心なしかふるわせている。「わたしの責任です」鏝投手がいえば、藤原稔捕手は「僕のリードが悪かったんだ」。しかし「お前らの責任じゃない」と渡辺監督はバッテリーをなぐさめた。「あのとき、こうしていたら……」球場を去るとき渡辺監督は、そんなことばかり考えていた。[ベースボールマガジン]

秋田											三池工										
学年	打数	得点	安打	打点	三振	四死	犠打	盗塁	失策		学年	打数	得点	安打	打点	三振	四死	犠打	盗塁	失策	
(右)成田	③	4	0	2	1	0	1	0	0	0	(三)木村	③	3	1	0	0	0	1	0	0	0
(遊)佐藤	③	3	0	0	0	0	1	0	1	0	(二)瀬口	③	4	0	1	3	0	0	0	0	0
(二)飯塚	③	4	0	0	0	1	0	0	0	0	(中)苑田	③	2	1	0	0	0	2	0	1	0
(捕)藤原稔	③	4	0	1	0	1	0	0	0	0	(右)下川	③	3	0	1	1	0	1	0	0	0
(一)岡本	③	3	1	1	0	0	1	0	0	1	(一)林田	②	3	0	0	0	0	0	1	0	0
(投)鏝	③	2	0	1	1	1	0	0	0	0	(遊)池田	③	4	0	0	0	0	0	0	0	0
投大久保	②	2	0	2	0	0	0	0	0	0	(左)瀬川	③	4	0	0	0	1	0	0	0	0
(中)藤原清	③	3	0	0	0	1	0	1	0	0	(捕)穴見	③	3	1	2	0	0	0	0	0	0
(左)斎藤	②	3	1	1	0	0	0	0	0	0	(投)上田	②	2	1	0	0	0	1	0	0	0
打今井	③	1	0	0	0	0	0	0	0	0	残塁6	28	4	4	4	1	5	1	1	0	
(三)渡辺	③	4	1	1	1	0	0	0	0	1	残塁7	33	3	9	3	4	3	1	1	2	

投手	回数	打者	安打	三振	四死	失点	自責
● 鏝	41/3	20	4	1	2	4	3
大久保	32/3	14	0	0	3	0	0
○ 上田	9	37	9	4	3	3	3

▽三塁打下川、岡本、渡辺、瀬口▽二塁打=斎藤、成田▽併殺=三池工2

【審判】(主)郷司(塁)中西悠、中西明、河合

【ひとくちメモ】①無念の渡辺監督:成田二ゴロ。秋田の渡辺監督は思わず天をあおいだ。“決勝進出成らず”。顔には笑いを浮かべているが、心はやはり、くやしかったに違いない。「私の失敗でした」。開口一番がそれ。「輕易倒錯を失敗した。もう少し早く大久保を出すべきだった。五回の一死一、二塁、あのあたりが代えどきだったですね。」。選手はよくやった。敗因はすべて自分だ、ということを渡辺監督はしきりにくりかえす。「来年は大久保投手も残っていますが、ことのようにスケールの大きなチームにはなりませんね」。また空を見上げた渡辺監督のほおは心なしか少しふるえていた。[朝日新聞=「ネット裏」より]

②三池工にとって秋田高はどうだったのかは澤宮優著『三池工業高校・甲子園優勝までの軌跡 炭鉱町に咲いた原野野球』に詳しい。その一節に……二塁手の瀬口は言う。「秋田は強かったですよ。あの大会で唯一圧迫感がありました。ちょうど疲れがピークだったというのがありますが、こんどこそは負けるかもしれないと不安になっていたんですね」……と、負けを覚悟した気持ちを語っている。

③三池工の監督は原貞。巨人軍原辰徳監督の父であり、ドラフト浪人中の菅野智之の祖父である。このときは、まだ29歳の青年監督。のちに東海大相模高、さらに東海大の監督を歴任し、名将への道を突き進む。苑田は法政大に進学。1試合最多の6安打のリーグ記録は今でも破られていない。また、同校OBで高校時代”中西二世”と呼ばれた兄の聡彦は現在広島のスカウト部長。2年生エース上田は翌年のドラフトで南海に1位で指名され入団した。

【準決勝戦を終えて】打っては安打数は秋田が9本、三池工が4本で倍の多さ。守っては悔いが残る投手リレー。負けるときはこんなものなのだろうか。それにしても惜しい試合だった。しかしながら、秋田高史上最強といっても過言ではないこのチームは素晴らしい戦いぶりと立派な戦果、そして優勝という二文字の宿題を残して甲子園を去っていった。

甲子園の笑い涙……夏を戦った若人の殊勲感激集

雪で培った秋田っ子の粘り

今大会中、雪国の秋田が準決勝まで勝ち進んだのは出色であった。雪国特有のネバリ、不屈の魂が”雪国では野球が育たない”というジンクスをみごとに打ち破った原動力となったことは明らかである。

野球そのものは荒けずりな、けっして巧い野球をする、とはいいい難い。都会チームに見られる小細工を織りこんだそつのない試合ぶりとはほど遠い。

一年のうち四ヶ月が雪の中。雪を踏み固めての練習はランニング、キャッチボールくらいだ。一年中土の上でボールと取り組める南国とは、おのずから練習量が違ってくるし、技術をマスターする期間も少ない。唯一の取りえといえば、逆境に育つ気力だろう。「雪の降らない所のチームとは、やはりハンディキャップがある。しかしそんなことはいってられない。その中で、そのハンディを縮める努力をしなければ……」

渡辺監督の指導も、だから理にかなったものになり、甲子園戦法も秋田独自のものになる。春のセンバツに出場したとき、「素朴な選手が多い。だから作戦も素朴なものになる。その結果よくなるか悪くなるかは予想し難いが……」夏もやはり同じだった。第一戦は都会チーム大阪の大鉄高を延長13回の末、4対3と破ったのも秋田なればこそそのゲーム運びだった。調子をくずし、エースゆえに先発した鏝は、大鉄の速攻に一回1点、二回に2点を失い、早くも勝敗は決まったかに見えた。地元大鉄の登場で、三日目、日曜日は5万の観衆がつめかけ、応援においても秋田は一方的に押されていたものだ。六回成田の豪快な右翼ホームー。七回に1点。そして土壇場九回に、平静を失った大鉄山田投手が四球を二つ出すと、秋田の地力はみごとに発揮され、五回の1点の足場を作った岡本が右中間を抜き、同点にしてしまった。

延長戦に入ってから、秋田は”逆境の気力”押せ押せで、13回サヨナラヒットを四番藤原が打ったのは、まさに当然といってもよかった。6回途中からリリーフして、大鉄を押えた大久保は、「延長に入ってから絶対勝てると思っていた。粘ったら勝ちですよ」と、みずからも認めていた。

二回戦は岡山東商を破った日大二高。前日、「都会チームとよく当るな」と岡本一塁手がいていたが、主将の飯塚二塁手は、「こわがることはないよ。気力でぶつかっていけば吹っ飛ばさ」と鼻息荒かったが、事実その通りで、三回、1点のリードを粉碎する5点を叩き出すと、日大の攻撃は目に見えて落ちた。この試合は秋田の集中力の勝利だった。「オーソックスですが、ウチは小細工はしません。いや、できない方が本当かな。打って打ちまくる。これが成功したようです。集中攻撃は十八番です」

渡辺監督は上機嫌だ。日大二を破って意気揚々と宿舎に引きあげたナインも、「都会チームを破ったからって、どういふことはない。しかし強敵を破ったその感激はいいですね」。飯塚主将は、それでも大阪、東京代表を破ったことは意義があるぞ、このまま決勝へ、と大きな目標へ自信満々であった。

準々決勝は津久見。18安打で13点と一方的に打ち破った。

秋田はその前身、秋田中時代、大正四年の第一回大会では京都二中と決勝で争い1-2と負けた歴史があり、昭和九年に準決勝まで進出しているが、その先輩の残した記録を上回る成績を残したい、と渡辺監督がいていたが、準決勝3-4のスコアで三池工に敗れ、渡辺監督の野望はついで去った。「いろいろ収穫はあった。ナインも満足しています」

橋本部長はこういって秋の。色濃くなる秋田に帰っていった。

[ベースボールマガジン]

甲子園大会 熱戦のあと

総論 ……名門秋田の勇戦ぶりは最も印象深いまも目に浮ぶ。……

投手 左腕の両雄上田(三池工)鏝(秋田) ……上田(三池工)、鏝(秋田)は左腕の双へきであったが、下半身にもう少し弾力性があれば、彼らの投球はさらに実ったであろう。[朝日新聞]

秋田高校甲子園全4試合 チーム成績と個人成績

投手	学 年	身 長	体 重	試 合 数	完 投	先 発	救 援	完 封	勝 利	敗 戦	勝 率	打 者 数	投 球 回 数	安 打	本 塁 打	三 振	四 死 球	暴 投	ボ ー ク	失 点	自 責 点	防 御 率
鏡 文行	3	1.78	69	4	1	3	0	0	1	1	.500	99	22.2/3	20	0	6	13	2	0	9	4	1.64
大久保正樹	2	1.72	64	3	0	0	3	0	2	0	1.00	55	16.1/3	4	0	9	4	0	0	2	1	0.56
計				4	1	3	3	0	3	1	.750	154	39	24	0	15	17	2	0	11	5	1.15

打者	学 年	身 長	体 重	試 合 数	打 数	得 点	安 打	二 塁 打	三 塁 打	本 塁 打	塁 打 数	打 点	三 振	四 死 球	犠 打	盗 塁	失 策	打 率	順 位
(投) 鏡 文行	3	1.78	69	4	8	2	4	0	0	0	4	4	3	2	1	0	1	.500	①
(投) 大久保正樹	2	1.72	64	3	6	0	3	0	0	0	3	0	0	1	0	1	0	.500	—
(捕) 藤原 稔	3	1.70	72	4	16	3	4	1	0	0	5	1	3	3	0	0	2	.250	⑦
(一) 岡本 隆	3	1.80	84	4	16	4	8	2	2	0	14	3	1	1	1	0	1	.500	①
(二) 飯塚 明	3	1.70	71	4	17	2	3	0	0	0	3	3	2	2	1	1	0	.176	⑨
(三) 渡辺 和美	3	1.70	63	4	15	3	6	1	1	0	9	5	1	1	2	1	2	.400	③
(遊) 佐藤 茂範	3	1.64	57	4	17	2	4	0	0	0	4	2	1	2	1	3	2	.235	⑧
(左) 広瀬 光男	3	1.64	57								(出場なし)								
(中) 藤原 清己	3	1.67	62	4	9	1	3	0	0	0	3	1	1	0	3	1	1	.333	⑤
(右) 成田 憲明	3	1.76	68	4	18	4	7	1	0	1	11	4	6	2	2	1	0	.389	④
(補) 堀内 一志	3	1.75	70								(出場なし)								
(補) 高橋 修平	3	1.70	63								(出場なし)								
(補) 今井 敦雄	3	1.78	78	4	9	1	0	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0	.000	⑩
(補) 斎藤 正人	2	1.73	76	4	10	3	3	1	0	0	4	1	1	1	1	0	0	.300	⑥
計				4	141	25	45	6	3	1	60	24	22	16	14	7	9	.319	

準々決勝に進出した8チームの投手成績と打撃成績

【 チーム投手成績 】											【 チーム打撃成績 】											
校名	投手名	回数	被安打	三振	四死	失点	助壘率	順位	試合	打数	得点	安打	二塁打	三塁打	本塁打	三振	四死球	犠打	盗塁	失策	打率	順位
秋田	▲鏡・大久保	39	24	15	17	11	1.15	⑤	4	141	25	45	6	3	1	22	16	14	7	9	.319	①
三池工	▲上 田	50	39	14	13	7	0.90	④	5	184	22	52	6	2	0	29	14	6	7	4	.283	②
銚子商	木樽・鮎原	44	23	36	3	5	0.41	①	5	156	13	37	4	3	0	20	14	3	18	3	.237	⑦
高 鍋	牧	26.2/3	8	32	10	2	0.68	③	3	95	13	23	7	1	1	16	7	5	5	3	.242	⑥
丸子実	小山健	26	22	8	2	7	1.73	⑥	3	97	14	24	7	1	0	16	4	4	5	2	.247	⑤
東 邦	北 角	27	21	20	9	7	2.33	⑦	3	91	17	24	2	3	0	14	12	8	3	5	.264	④
報徳学園	谷 村	27.1/3	16	22	0	3	0.66	②	3	89	5	19	4	2	0	19	7	4	4	3	.213	⑧
津久見	▲三 浦	27	28	11	13	17	2.33	⑦	3	91	13	25	4	0	0	5	8	6	5	5	.275	③

【注】①順位は準々決勝に進出した8チームの比較②投手名の▲印は左腕

チーム打率.319は30校中で最高。3割台は秋田高校だけで、優れた打力が評判となった三池工の.283が2位であることから、いかに秋田の打棒が秀でていたかがわらう。中でも長打の多さがひととき目をひく。得点も参加校最多だ。今と違い、雪と寒さによる冬季の練習時間のハンディを思うとよくぞここまでとの感が強い。投手も先発と救援の分業体制を敷き、それを左右の2枚看板で揃えるなど、現在の高校野球が求めるチーム構成の姿を示唆するようだ。

<コピー資料>

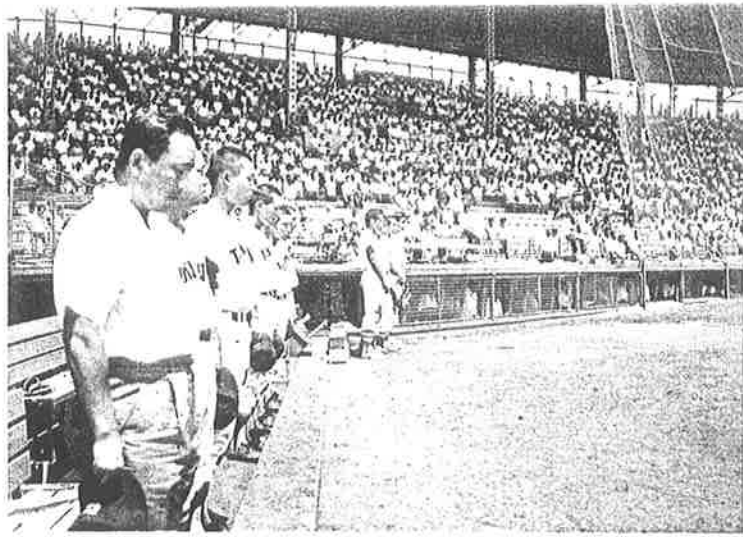
秋田高校 第四十七回全国高校野球選手権大会の記録

- | | | |
|---|--------------------------|--------------|
| ◇ 秋田高 春に続いて甲子園へ | 秋田さきがけ(魁新報) | 昭和40年8月2日付 |
| ◇ 善戦健闘 2363校 各地の予選記録
西奥羽大会 | 週刊朝日臨時増刊
第47回甲子園大会号 | 昭和40年8月15日発行 |
| ◇ 30代表高の横顔
西奥羽代表 秋田 | 週刊朝日臨時増刊
第47回甲子園大会号 | 昭和40年8月15日発行 |
| ◇ 予選から逸材をさぐる
ことしは投手の当り年 久保田高行 | 週刊朝日臨時増刊
第47回甲子園大会号 | 昭和40年8月15日発行 |
| ◇ 覇権を握るのはどこか
岡山東、徳島、高松の三商が有望 | 週刊朝日臨時増刊
第47回甲子園大会号 | 昭和40年8月15日発行 |
| ◇ グラフ 球趣沸く甲子園の内と外
感激の入場式 | ベースボールマガジン
昭和40年9月1日号 | 昭和40年9月1日発行 |
| ◇ グラフ 秋田高(西奥羽)4-3大鉄高(大阪)
大会三日目 終戦記念日 | ベースボールマガジン
昭和40年9月1日号 | 昭和40年9月1日発行 |
| ◇ 甲子園大会から好選手を拾う
松尾 俊治 | ベースボールマガジン
昭和40年9月1日号 | 昭和40年9月1日発行 |

秋田高校甲子園全4試合の試合別個人成績

投手			学年	身長	体重	試合数	完投	先発	救援	完封	勝利	敗戦	勝率	打席数	被弾数	安打	本塁打	三振	四死球	暴投	ボーク	失点	自責点	防御率
鏡	文行	3	1.78	69	1	0	1	0	0	0	0	0		31	61/3	9	0	1	4	1	0	3	0	
					1	0	1	0	0	0	0	0		14	3	2	0	2	3	0	0	1	1	
					1	1	0	0	0	0	○	0		34	9	5	0	2	4	1	0	1	0	
					1	0	1	0	0	0	●	0		20	41/3	4	0	1	2	0	0	4	3	
					4	1	3	0	0	0	1	1	.500	99	222/3	20	0	6	13	2	0	9	4	1.64
大久保	正樹	2	1.72	64	1	0	0	1	0	○	0	0		22	62/3	2	0	7	0	0	0	0	0	
					1	0	0	1	0	○	0	0		19	6	2	0	2	1	0	0	2	1	
					1	0	0	1	0	0	0	0		14	32/3	0	0	0	3	0	0	0	0	
					3	0	0	3	0	2	0	1.00	.55	55	161/3	4	0	9	4	0	0	2	1	0.56
打者			学年	身長	体重	試合数	打数	得点	安打	二塁打	三塁打	本塁打	塁打数	打点	三振	四死球	犠打	盗塁	失策	打率	順位			
(投)	鏡	文行	3	1.78	69	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0					
					1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0					
					1	4	1	3	0	0	0	3	3	0	0	0	1	0	1	0				
					1	2	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0					
					4	8	2	4	0	0	0	4	4	3	2	1	0	1	0	.500	①			
(投)	大久保	正樹	2	1.72	64	1	3	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0					
					1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0					
					1	2	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0					
					3	6	0	3	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	.500	—			
(捕)	藤原	稔	3	1.70	72	1	5	1	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0					
					1	3	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2						
					1	4	2	2	1	0	0	3	0	1	1	0	0	0	0					
					1	4	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0					
					4	16	3	4	1	0	0	5	1	3	3	0	0	2	0	.250	⑦			
(一)	岡本	隆	3	1.80	84	1	5	1	2	2	0	4	1	1	0	0	0	0	0					
					1	4	0	3	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0					
					1	4	2	2	0	1	0	4	1	0	0	1	0	0	0					
					1	3	1	1	0	1	0	3	0	0	1	0	0	1	0					
					4	16	4	8	2	2	0	14	3	1	1	1	0	1	0	.500	①			
(二)	飯塚	明	3	1.70	71	1	4	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0					
					1	4	1	1	0	0	0	1	2	1	0	0	1	0	0					
					1	5	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0					
					1	4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0					
					4	17	2	3	0	0	0	3	3	2	2	1	1	0	.176	⑨				
(三)	渡辺	和美	3	1.70	63	1	5	0	2	1	0	3	0	0	0	0	0	1						
					1	2	1	1	0	0	0	1	1	0	1	1	1	0						
					1	4	1	2	0	0	0	2	3	1	0	1	0	0						
					1	4	1	1	0	1	0	3	1	0	0	0	0	1						
					4	15	3	6	1	1	0	9	5	1	1	2	1	2	.400	③				
(遊)	佐藤	茂範	3	1.64	57	1	5	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1						
					1	4	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0					
					1	5	2	3	0	0	0	3	2	0	1	0	1	1						
					1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0						
					4	17	2	4	0	0	0	4	2	1	2	1	3	2	.235	⑧				
(左)	広瀬	光男	3	1.64	57																			
(中)	藤原	清己	3	1.67	62																			
					1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
					1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
					1	3	1	2	0	0	0	2	1	0	0	2	1	1						
					1	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0						
					4	9	1	3	0	0	0	3	1	1	0	3	1	1	.333	⑤				
(右)	成田	憲明	3	1.76	68																			
					1	5	2	2	0	0	1	5	1	3	1	0	0	0						
					1	5	1	1	0	0	0	1	1	3	0	0	1	0						
					1	4	1	2	0	0	0	2	1	0	0	2	0	0						
					1	4	0	2	1	0	0	3	1	0	1	0	0	0						
					4	18	4	7	1	0	1	11	4	6	2	2	1	0	.389	④				
(補)	堀内	一志	3	1.75	70																			
(補)	高橋	修平	3	1.70	63																			
(補)	今井	敦雄	3	1.78	78																			
					1	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0						
					1	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0						
					1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0						
					1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
					4	9	1	0	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0	.000	⑩				
(補)	斎藤	正人	2	1.73	76																			
					1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0						
					1	3	1	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0						
					1	3	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0						
					1	3	1	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0						
					4	10	3	3	1	0	0	4	1	1	1	1	0	.300	⑥					

【(注)守備位置は大会前の登録による】



大会三日目は終戦記念日。正午のサイレンとともにプレーを中断して一分間の黙とう。平和を心から祈った。あれから20年、球児の成長が嬉しい。

秋田高4 - 3 大鉄高
 (西奥羽) (大阪)



延長に入って秋田は押し気味、12回には渡辺のヒットで二塁走者今井がホームをついたが惜しくもアウト。最初のサヨナラの機は逸したが……。

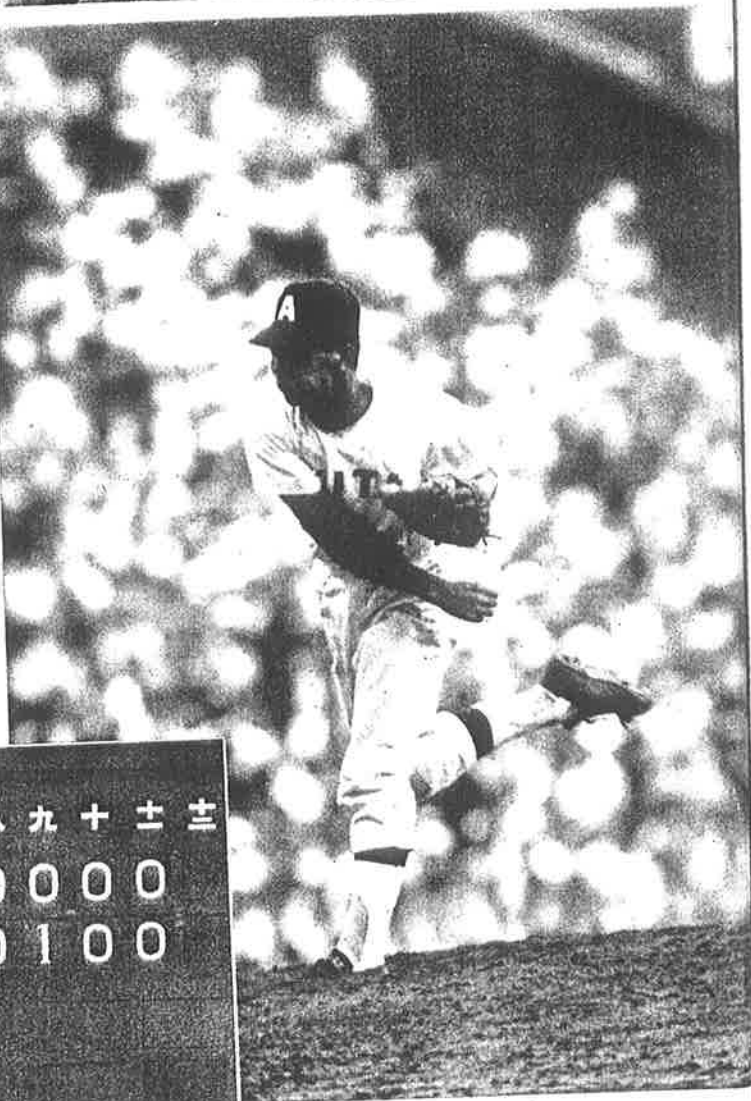


つづく13回裏成田の内野安打でチャンスをつかみ二死三塁に藤原が中前に幸運のヒットで、ついに勝利をもにしたら。成田にだきつく選手たち。



殊勲の藤原は渡辺監督に祝福されていまにも泣きそう。

主戦投手鏝の不調で3点をリードされた秋田が後半追いつけたのは、リリーフ大久保の快投がものをいった。



熱戦物語る延長戦。

	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
大鉄	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
秋田	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0
※一												
八戸	2											
※二												
高松			1									